

平成 30 年度 森林研究・整備機構営事業 事後評価 技術検討会  
農用地総合整備事業 「下閉伊北区域」 議事概要

1. 実施日 平成 30 年 7 月 3 日(火) 15:00~17:00
2. 場所 農林水産省 本館南側地下 1 階 農村振興局第 2 会議室
3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院教授  
飯田 俊彰 東京大学大学院准教授  
橋本 禅 東京大学大学院准教授  
早野 由紀子 (有)早野商店取締役  
(敬称略、五十音順)  
事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他  
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター  
農用地業務室長 他

4. 技術検討会の概要

- (1) 委員長の選出  
浅野委員を選出した。
- (2) 「関係団体の意見」の報告及び「事後評価書(案)」について  
事務局より説明を受け、質疑を行った。
- (3) 意見・指摘等  
技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめた。

本事業により整備された農用地や農業用道路は、やませを特徴とする夏季冷涼な気候を活かしたブロッコリーやピーマンの生産拡大と地域の自然を活かした山地酪農や特産品の畑わさびなどの農林畜産物の生産、加工、流通の効率化に大いに寄与している。

本事業は、課題であった農業生産性の向上や農林畜産物の流通網の拡充により、地域資源が有機的に結びつき、本地域が大きく発展しうる土台づくりに貢献したと高く評価できる。

(農用地整備)

区画整理や暗渠排水整備等により、区画の整形・拡大、排水不良の解消が図られたことで生産性及び収益性が向上するとともに、併せて耕作道や用水施設等が整備されたことにより、営農経費の節減に貢献している。

また、事業により整備された農地は、その一部が平成 28 年台風 10 号の被害を受けたものの早期に営農が再開されており、このことは事業実施を契機とした農家の

営農意欲の向上により下支えされたものと推察できる。

（農業用道路）

整備された農業用道路は、農産物輸送や耕作者の通作に要する時間の短縮、林地へのアクセスの向上とともに、地域の特産である乳製品等の盛岡市、久慈市等への流通の円滑化、買い物、通勤、通学、通院など日常生活の利便性の向上に寄与している。

また、道路網の整備により堆肥化した家畜糞尿が農地へ還元されやすくなり、地域資源の循環にも貢献している。

本区域では、地域の自然を活かした山地酪農、畑わさび等の生産及びそれらに係る加工品の開発が進められるなど地域資源が高度に利用されており、その生産から出荷までの各段階で農業用道路が大いに活用されている。

さらに、平成 23 年の東日本大震災や平成 28 年台風 10 号の際、農業用道路は災害に強い道路として国道等の代替路になり、地域に必要な物資等の輸送や住民等の交通の確保に寄与した。

また、農業用道路と国道 455 号と国道 45 号がトライアングル状に繋がったことから、龍泉洞と三陸沿岸の観光資源を結ぶ周遊ルートが形成され、農山漁村体験の場の提供等の都市・農山漁村交流や地域観光の振興に貢献している。将来、更なる周辺道路網の整備が進むことにより、本事業の価値は一層向上すると期待できる。

（今後の農業振興や地域振興に向けて）

本区域は、担い手の育成や担い手への農地集積が途上にあり、整備された農地を有効活用し、農地の流動化の促進と地域の中核となる担い手の育成が今後期待される。

また、地域特産品について、企業等との連携による商品開発や一層の高付加価値化の推進が望まれる。

（以上）